

ホーム > 政策分野・行政活動 > 政策分野一覧 > 保健・化学物質対策 > 放射線健康管理対策 > 放射線による健康影響等に関する統一的な基礎資料の作成 > 放射線による健康影響等に関する統一的な基礎資料（平成29年度版）の掲載について（お知らせ） > 放射線による健康影響等に関する統一的な基礎資料（平成29年度版、HTML形式）

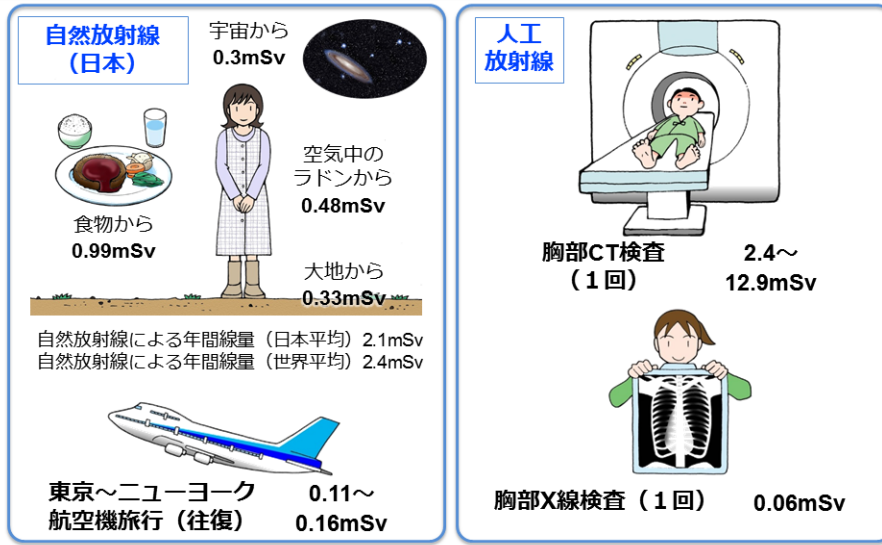
第2章 放射線による被ばく

2.5 身の回りの放射線

放射線による健康影響等に関する統一的な基礎資料（平成29年度版）

自然・人工放射線からの被ばく線量

身の回りの放射線 自然・人工放射線からの被ばく線量



mSv：ミリシーベルト

出典：国連科学委員会（UNSCEAR）2008年報告、原子力安全研究協会「新生活環境放射線（平成23年）」、ICRP103 他より作成

+ 第1章 放射線の基礎知識

- 第2章 放射線による被ばく

2.1 被ばくの経路

2.2 原子力災害

2.3 放射線の単位

2.4 線量測定と計算

2.5 身の回りの放射線

+ 第3章 放射線による健康影響

+ 第4章 防護の考え方

+ 第5章 国際機関による評価

+ 第6章 事故の状況

+ 第7章 環境モニタリング

+ 第8章 食品中の放射性物質

+ 第9章 事故からの回復に向けた取組

+ 第10章 健康管理

閉じる

日常生活をする中で、私たちは知らず知らずのうちに放射線を受けています。宇宙から、そして大地から受ける自然放射線による外部被ばくや、食物や空気中のラドン等、自然由来の放射性物質から受ける内部被ばくは、合計すると年間で世界平均では2.4ミリシーベルト、日本平均では2.1ミリシーベルトになります（[上巻P63「年間当たりの被ばく線量の比較」](#)）。

また、日本では放射線検査等で受ける医療被ばくの割合が大きいたことが知られています。これは一回の検査当たりの被ばく量が多いCT検査が広く普及していることや胃がん検診で上部消化管検査が行われているためと考えられています。

本資料への収録日：平成25年3月31日

改訂日：平成27年3月31日

◀前のページへ

次のページへ▶

ページ先頭へ